

# 北東北の中標高以上で利用できる フェストロリウム「イカロス」

当サブチームでは、高品質多収、耐湿性で、寒冷地の転作田での栽培にも導入可能な採草向き新牧草、フェストロリウム「東北1号」を2009年に育成しました。「東北1号」は、北東北の中標高以上の草地では、耐雪性・越冬性が十分でないため、こうした地域での導入・栽培を推奨していません。このため、越冬性を高め、中標高以上の草地にも適応する広域適応性品種「イカロス」(旧系統名：盛系1号)を新たに育成しました。本品種は、その主要な系統育成過程を東北農研が担当し、広域適応性の評価および選抜を雪印種苗(株)が分担した共同育成品種です。

## 《イカロスの特徴》

「イカロス」は北海道長沼町(連続積雪日数約120日)で栽培試験し、越冬に支障がないことを確認しています。東北地方では、高標高の多雪地や山間部の日当たりが悪い圃場を除いた中標高以上の草地や飼料畑で栽培が可能です。「イカロス」は育成地(岩手県盛岡市)においても「東北1号」に比較して雪腐病の罹病が少なく、北東北での適応性が高いことを確認しました(写真1)。



写真1 / 播種翌年融雪直後のイカロス(左)と東北1号(右)  
「イカロス」は雪腐病による葉枯れが「東北1号」よりも少ないことがわかります。

「イカロス」の収量は、採草を想定した年間4回刈りおよび放牧を想定した年間7-8回刈りの4カ年平均値で「東北1号」とほぼ同等の結果となりました(表1)。両品種はほぼ同時期の出穂日となります。「イカロス」の草姿は、「東北1号」よりも稈長・穂長が短く、葉幅が小さく、穂(茎)数が多く、放牧にも適しています(表2)。本品種は、蛍光反応個体率と無芒個体率の結果からも「東北1号」に比べてイタリアンライグラスから離れた特性を示します。家畜における消化性を

飼料作物育種研究東北サブチーム

上山泰史

UEYAMA, Yasufumi



反映する乾物消失率は、オーチャードグラス「キタミドリ」よりも優れますが、「東北1号」やハイブリッドライグラス「ハイフローラ」よりも劣ります。永続性を反映すると考えられる播種3年後における秋の被度は、「東北1号」と同等で、「キタミドリ」よりも劣り、「ハイフローラ」よりも優れます。また、「イカロス」は採種性が優れるので、効率的な種子の増殖ができて、早期の普及と低い種子価格が見込まれます。

なお「イカロス」の名称は、ギリシャ神話Icarusに因み、太陽に向かって進む姿を表現しています。また、JAXAの宇宙実証機(IKAROS)の名にも使われており、未来を切り拓く技術をイメージしています。

表1 / イカロスの収量性および関連形質 東北農研(盛岡市)

品種・系統	雪腐病罹病程度 <sup>1)</sup>	出穂始日	乾物収量比 <sup>2)</sup>		乾物消失率 <sup>3)</sup>	播種3年後秋の被度
			少回刈	多回刈		
イカロス	5.3	5/27	101	101	42.8 %	84 %
東北1号	6.5	5/27	100	100	45.1	83
ハイフローラ	7.8	5/24	98	106	44.9	71
キタミドリ	2.3	5/18	96	99	39.0	95

1) 播種翌年融雪直後の罹病程度、無微1-基9.

2) 2006-2008年の収量による。少回刈は年間4回、多回刈は年間7-8回調査。東北1号を100とした指数。

3) 2007年2-4番草の平均値。

表2 / イカロスの形態的及び採種等関連形質 東北農研(盛岡市)

品種・系統	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	種子収量 g/m <sup>2</sup>	無芒 個体率	蛍光反応 個体率
東北1号	76.6	34.5	577	87	9	63
ハーフェスト	66.9	31.7	793	136	96	42

1) データは2007-2008年の平均値。

## 《栽培適地》

東北地域の連続積雪期間(根雪期間)が、120日までの草地および飼料畑での栽培に適しています。但し、夏期の高温は越夏性・永続性を低下させるので、南東北の内陸部や日本海側の標高500m以下の低標高地での栽培は推奨していません。